

# 東京湾海況情報 24-7

## 東京湾水質調査結果 (平成24年10月)

(平成24年10月19日発行)

千葉県水産総合研究センター  
 東京湾漁業研究所  
 〒 293-0042 富津市小久保3091  
 TEL 0439-65-3071  
 E-mail futtsu-gk@mz.pref.chiba.lg.jp  
 千葉県農林水産技術会議

資料 水質調査 10/9：内湾(わかふさ)、10/2：内房海域(ふさみ丸)  
 関東・東海海況速報(10/2-9)、東京湾口海況図(10/2-9)  
 モニタリングポスト(10/9：海上保安庁)  
 神奈川県水産技術センター(10/2)、千葉県環境研究センター(10/10)、東京都環境局(10/11)

今月の観測は4日に通過した台風19号に伴い、内湾と内房海域の海況が変化した可能性があるため、海域ごとに区分して掲載しました。

### 【 水温・塩分の状況 】

これまで高水温であった内湾の表層水温(図1)は先月末頃から急激に低下し、21℃台まで下がっています。塩分はほぼ30~32PSU台で、千葉県側では平年より高めになっています。また、縦断面の水温・塩分の鉛直分布(図2)をみると、水温は表層から底層までほぼ一様に分布していますが、塩分はまだ成層状態を示しています。

一方、内房海域の表層水温は沖合水の流入によって、23~25℃台になっています。

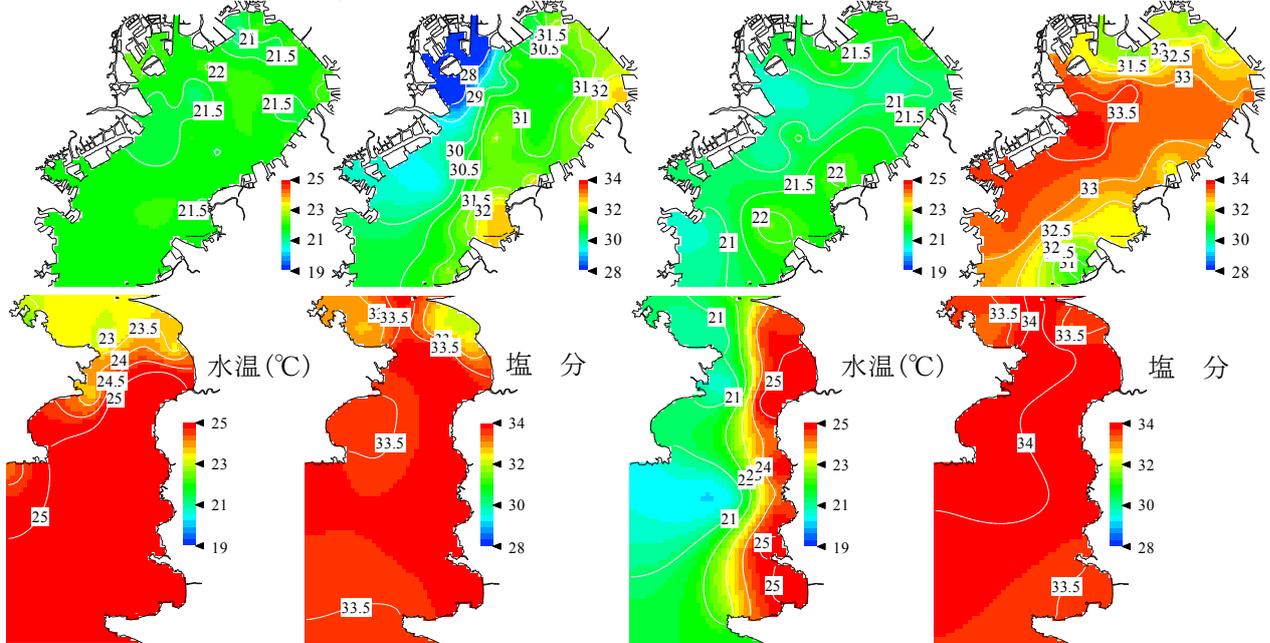


図1 水温・塩分分布 (表層)

図2 水温・塩分分布 (底層)

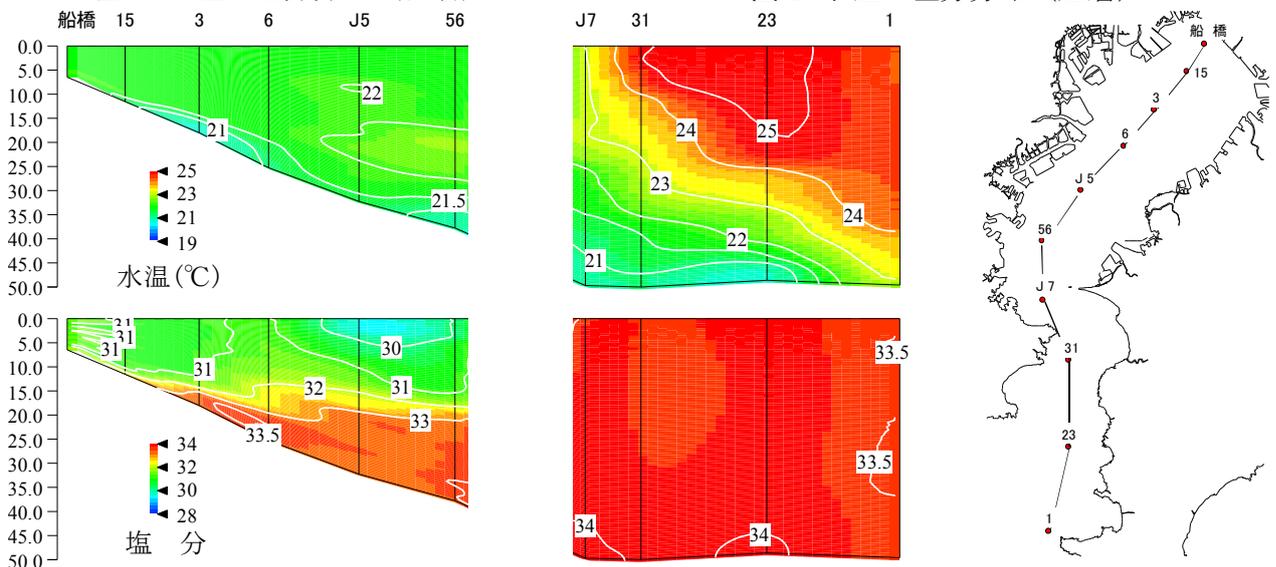


図3 縦断面の水温・塩分の鉛直分布(上：内湾、下：内房海域、右：調査ライン)

### 【 赤潮の状況 】

赤潮は全域で発生していません。しかし、内湾ではスケルトネマ (*Skeletonema* sp.) やシュードニッチア (*Pseudo-nitzschia* sp.) などの小型ケイ藻が多くみられています。また、北部海域では透明度が2m台まで低下し、水色もやや褐色を帯びているところがみられます。

一方、内房海域は北部海域で渦鞭毛藻のプロロセントルム (*Prorocentrum* sp.) とケイ藻のコスキノディスクス (*Coscinodiscus* sp.) がやや多くみられていました。

※ 千葉県の赤潮の目安は次のとおりです。

色	: オリーブ～褐色
酸素飽和度	: 150%以上
透明度	: 1.5m以下
pH	: 8.5以上
クロロフィルa	: 50 $\mu$ g/L以上

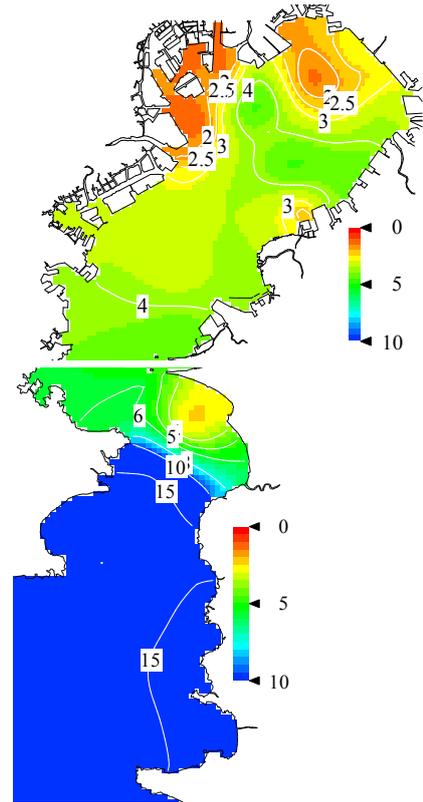


図4 透明度の分布 (m)

### 【 貧酸素水塊の状況 】

内湾底層部の溶存酸素量(図5)は北東部及び多摩川河口から東京灯標付近でやや低下しています。

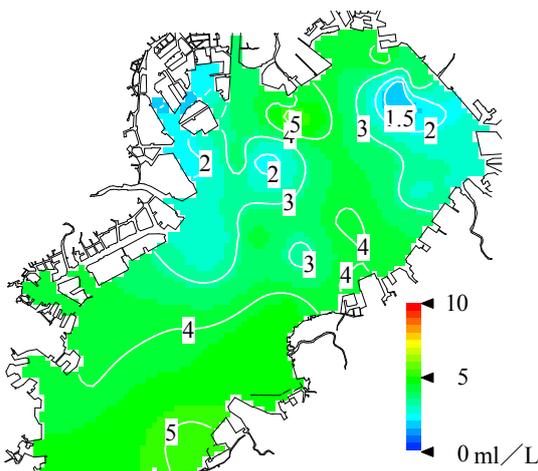


図5 底層部の溶存酸素量の分布(内湾)

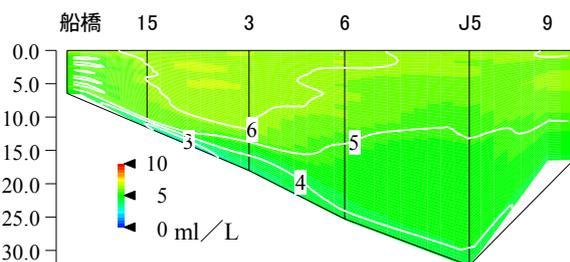


図6 縦断面の溶存酸素量の分布(内湾)

### 【 栄養塩の状況 】

湾内の表層栄養塩濃度(図7)は内房海域で溶存無機態窒素(DIN)、リン酸態リン( $\text{PO}_4\text{-P}$ )が平年より少なくなっています。内湾ではほぼ平年並みからやや多くなっています。

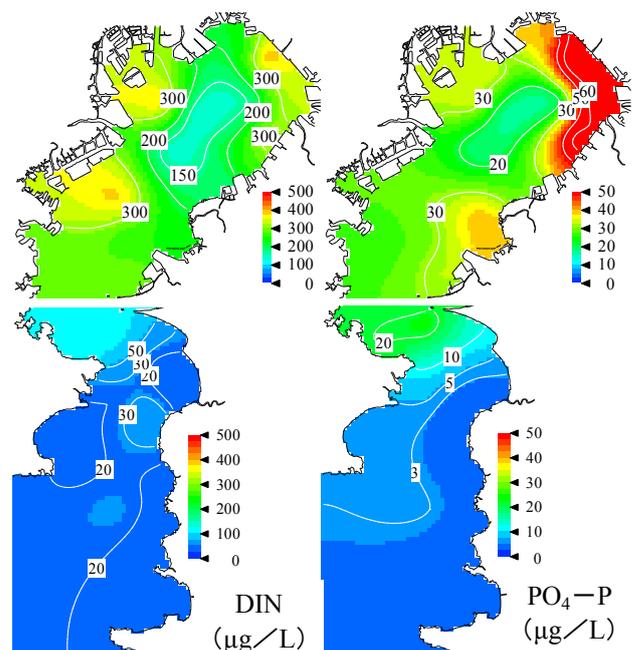


図7 栄養塩濃度の分布 (表層)

※ 千葉県水産総合センターでは、溶存酸素量2.5ml/L

## 【黒潮の状況】

黒潮はほぼN型基調で推移し、その流軸は、9日現在三宅島・御蔵島付近を通過した後、房総南東岸に接岸しながら北東方向に流れています(図8)。

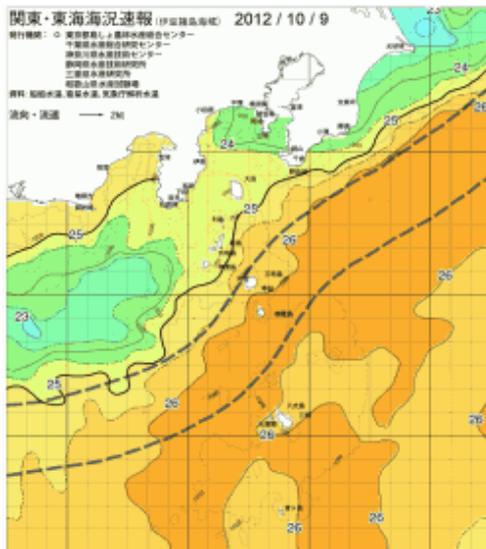
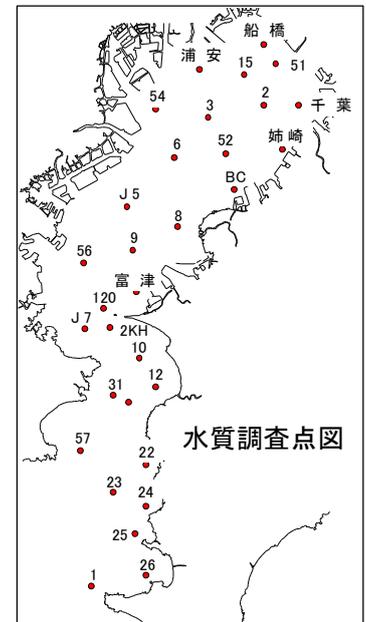


図8 黒潮の動き (平成24年10月9日)



水質調査点図

表1 主な調査点の水質調査結果 (表層, 溶存酸素量のみ底層)  
( ): 最近10年間の平均値 (2002~2011年)

調査点	水温 (°C)	塩分	透明度 (m)	pH	溶存酸素量 (ml/L)	アンモニア態窒素 (µg/L)	溶存無機態窒素 (µg/L)	リン酸態リン (µg/L)	クロロフィルa (µg/L)
船橋	21.9 (22.4)	31.52 (29.49)	2.5 (2.1)	8.1 (8.4)	4.2 (2.6)	117 (65)	251 (265)	49 (34)	23.5
st.15	21.7 (22.2)	30.78 (28.84)	1.5 (2.3)	8.3 (8.4)	3.0 (1.8)	51 (28)	181 (220)	30 (19)	36.7
st.3	21.7 (21.9)	30.81 (28.42)	4.0 (2.9)	8.3 (8.4)	3.3 (1.3)	19 (60)	114 (392)	15 (26)	11.6
st.6	21.8 (21.8)	31.13 (29.06)	3.6 (3.3)	8.3 (8.4)	3.8 (2.1)	26 (34)	132 (286)	17 (20)	14.8
st.9	21.9 (21.8)	30.78 (29.73)	3.5 (4.6)	8.3 (8.3)	4.3 (3.3)	38 (33)	249 (230)	29 (22)	15.5
st.BC (盤洲Cブイ)	21.8 (22.8)	31.16 (30.05)	2.3 (2.9)	8.3 (8.3)	4.1 (2.6)	28 (36)	175 (172)	28 (27)	30.5
st.8 (盤洲A南)	21.7 (22.0)	31.92 (30.10)	3.8 (3.4)	8.2 (8.3)	4.5 (2.4)	81 (40)	220 (212)	38 (29)	8.9
富津	21.7 (22.0)	30.93 (30.24)	4.5 (4.9)	8.2 (8.2)	5.2 (3.8)	77 (39)	284 (239)	32 (27)	8.1
st.2KH (第2海ほ下)	23.1 (22.0)	33.67 (31.47)	6.0 (6.4)	8.2 (8.2)		43 (38)	98 (213)	23 (24)	1.9
st.31	24.8 (22.2)	33.64 (31.57)	16.0 (8.1)	8.3 (8.2)		11 (31)	21 (163)	5 (17)	0.4
st.23	25.4 (23.1)	33.80 (33.01)	16.0 (13.6)	8.3 (8.2)		15 (18)	28 (71)	3 (6)	0.4
st.1	24.4 (23.5)	33.52 (33.43)	19.0 (16.0)	8.2 (8.2)		5 (18)	17 (42)	1 (5)	0.6
st.10 (下洲沖)	24.0 (22.1)	33.73 (31.65)	3.0 (6.3)	8.3 (8.3)		12 (33)	25 (183)	9 (16)	5.7
st.12 (湊沖)	25.4 (22.1)	33.91 (31.61)	7.5 (6.3)	8.3 (8.3)		8 (26)	12 (151)	2 (16)	
st.22 (保田沖)	25.3 (23.0)	33.90 (33.22)	15.0 (12.3)	8.3 (8.2)		9 (21)	15 (57)	2 (5)	0.4
st.24 (富山沖)	25.2 (23.1)	33.89 (33.34)	13.0 (14.0)	8.3 (8.2)		4 (20)	11 (47)	2 (4)	0.7
st.26 (館山湾内)	25.2 (23.5)	33.76 (33.58)	12.0 (13.8)	8.3 (8.2)		5 (21)	11 (62)	2 (7)	

注) 透明度、pH、クロロフィルaの欄の橙色は赤潮の基準に、溶存酸素量の欄の青色は貧酸素水の基準に達していることを示しています。